

## ■ 避難の方法

大雨や台風等の時は、気象情報に注意し、すぐに避難ができるように準備しておきましょう。避難をするときは、以下を参考にしてください。

### 1 最新情報を入手



ラジオ・テレビなどから最新の気象・災害情報を入手し、危険を感じたら避難準備をしてください。

### 2 呼びかけに注意



市役所、消防署、警察署からの避難の呼びかけに注意してください。

### 3 避難所を確認



避難する前に、ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落としましょう。また、万一途中で家族が離ればなれになったときの集合場所（避難所）も決めておきましょう。

### 4 2人以上で避難



できるだけ1人の避難は避けましょう。また、子どもからは目を離さないでください。

### 5 助け合って避難を



子どもや高齢者、病気の人が、外国人などは避難に時間がかかるので、早めに避難させましょう。また、近所の人の場合も積極的に協力しましょう。

### 6 安全な避難



浸水があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう（杖などで深さを調べる）。また、がけ地などでは、土砂災害のおそれがあるので注意してください。

### 7 避難は徒歩で



車での避難は、緊急車両通行の妨げや交通渋滞を招くほか、浸水により動けなくなるおそれもあります。特別な事情がない限り、徒歩で避難してください。

### 8 避難に遅れたら…



万一、避難に遅れ危険が迫ったときには、近くの頑丈な建物のできるだけ高いところに逃げてください。

## ■ 災害時要援護者への支援

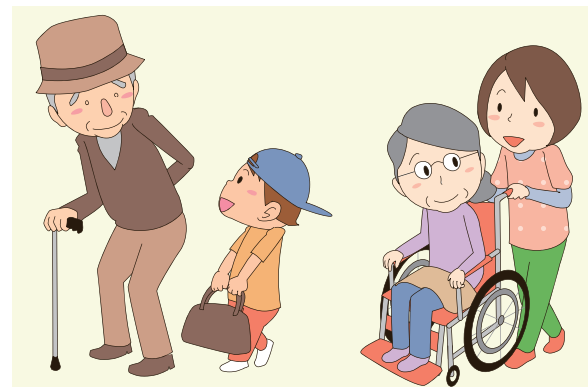
### ● 高齢者・障害のある方・妊産婦の方など

#### <災害時要援護者>

- ・災害時には早めの避難が必要
- ・一人で行動することに不安がある場合は、周囲の方の助けを求め

#### <支援者>

- ・避難をする際は、周囲に声をかけ、逃げ遅れている人がいないか気を配る



### ● 目の不自由な方・耳の不自由な方

#### <災害時要援護者>

- ・白杖や筆記用具は手の届くところに置くか、携帯しておく
- ・一人で行動することに不安がある場合は、周囲の方の助けを求め

#### <支援者>

- ・口頭だけでなく、身振り、手振りなどの方法で、危険を伝え、避難所へ誘導する



## ■ 地域での助け合い

災害による被害を未然に防ぐには、または、最小限にとどめるためには、地域での助け合いが重要です。

防災対策は、自助、共助、公助の3つがあってはじめて大きな力となります。災害が発生したときに、自分ができることは何か考えてみましょう。

### <自助とは・・・>

「自らの安全は自ら守る」、これが防災の基本です。

自宅の家具を固定したり、自宅を補強したり、自宅を災害に強い空間にすることも自分にしかできないことです。特に、地震は突然やってくるため、誰もが自分の身の安全を守ることはできません。

このように、自分の手で自分・家族・財産を守る備えと行動を自助と呼びます。



### <共助とは・・・>

「自分たちの地域は自分たちで守る」、これが地域を守る最も効果的な方法です。例えば、隣の家からの出火を放っておけば、自分の家も燃えてしまいます。地域を守ることは、自分の命や財産を守ることもつながります。災害時に近隣で協力して地域を守ることができるよう、日ごろから、地域の方々と交流を持つことが大切です。

また、避難所の運営にも共助の力が不可欠といえます。



### <公助とは・・・>

市をはじめ、警察・消防・県・国といった行政機関、水道・電気・ガスなどのライフライン各社をはじめとする公共企業、こうした機関の応急対策活動を公助と呼びます。市や各機関は、災害の予防対策や応急対策、復旧対策を事前に定めています。